



# 2011年6月期 第1四半期決算説明資料

株式会社 マクロミル

証券コード: 東証1部 3730

# 2011年6月期 第1四半期トピックス

## 売上高・利益ともに当社計画を上回る

- ・ 連結売上高で前年比61.6%増を達成（YVIの売上高は2ヶ月のみ取込み）
- ・ 景気の追い風もあり、全ての業界で前年同期の売上高を上回った
- ・ 通期目標の経常利益率20%を、第1四半期で達成

## YVIとの経営統合は順調に推移

- ・ 8月1日付でYVIのマーケティングリサーチ事業を吸収分割により承継
- ・ 9月下旬にオフィス統合が完了し、10月1日から新組織で稼働開始

# 1. 業績に関するご報告

# 2011年6月期 第1四半期 決算概要

(単位:百万円)

		第1四半期会計期間 (7/1~9/30)			第2四半期累計期間 業績予想 (進捗率)	
		12期	11期	前年同期比		
連結	売上高	2,848	1,762	161.6%	5,821	(48.9%)
	経常利益	582	367	158.3%	920	(63.3%)
	経常利益率	20.4%	20.8%	-	15.8%	-
	特別損益	▲92	▲5	-	-	-
	当期純利益	283	271	104.3%	398	(71.1%)

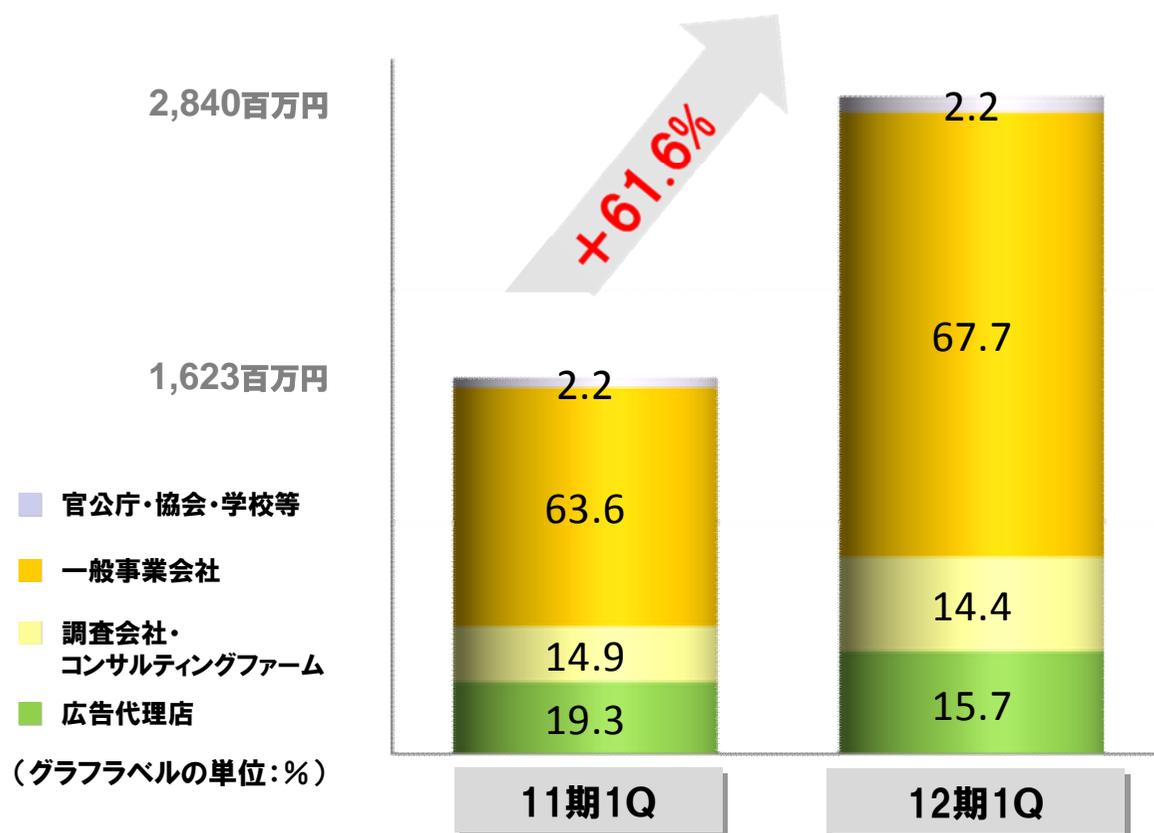
※11期第1四半期には、連結子会社であったAIPの業績が含まれます。

## ※ご参考

単体	売上高	2,840	1,623	175.0%	5,821	(48.8%)
	マクロミル	2,045	1,623	126.0%	-	-
	YVI(8-9月)	795	713	111.5%	-	-
	経常利益	574	425	135.1%	920	(62.4%)

# 業種別売上高構成比(単体)

- ✓ マクロミルとYVIの業種別売上高構成比に、大きな違いはない
- ✓ 12期1Q合計においては、全業種で前年を上回る売上高  
→ YVI増加分を除いても、前年比+26.0%を達成



## 売上高伸長業界

(マクロミル前年同期、金額比)

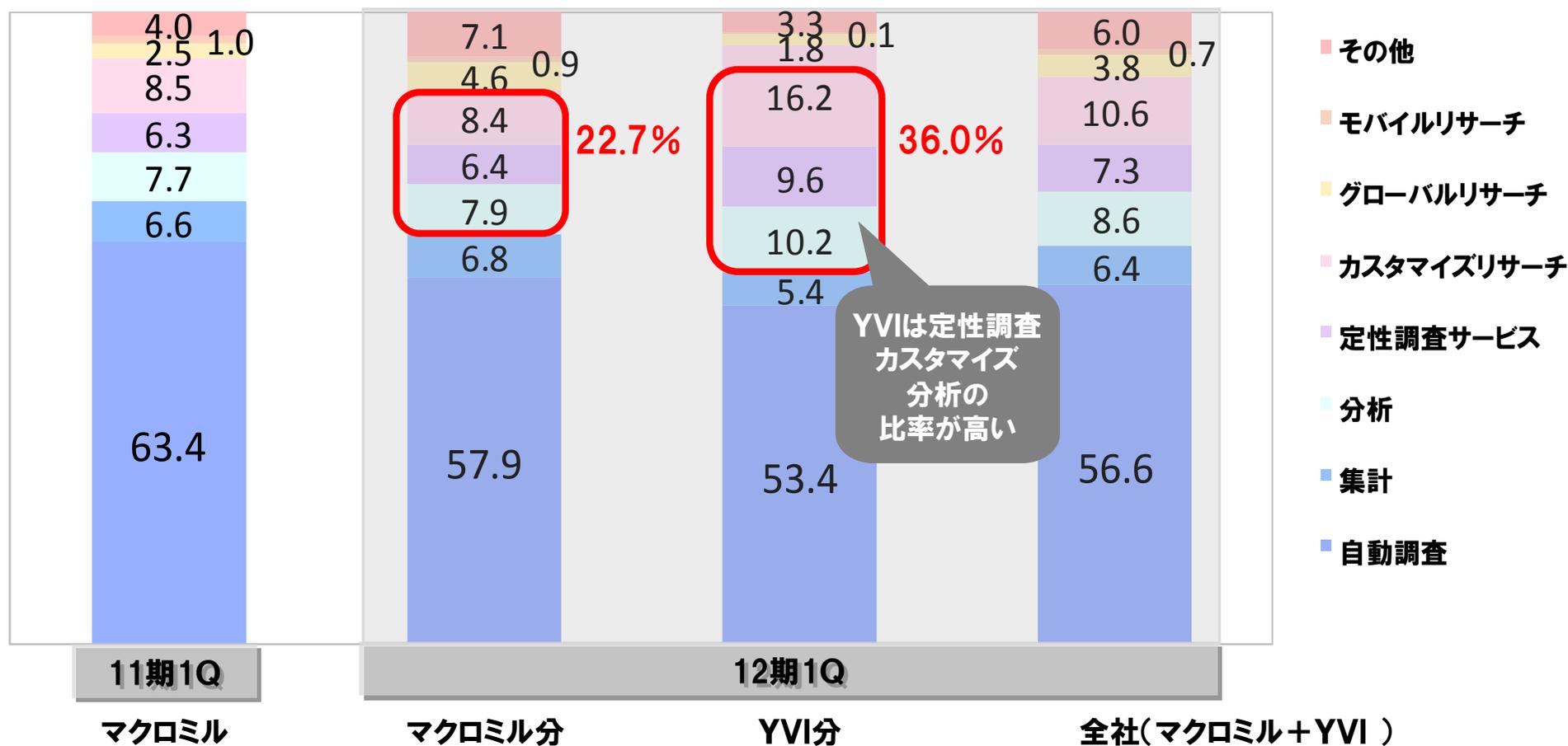
1. 食料品・飲料 **59.5%増**  
**+1.2億円**
2. サービス **+1.1億円**
3. 調査・コンサル **+0.5億円**

→QPRを軸に売上伸長  
→前期に不調だった  
業界が回復

# 商品別売上構成の変化(単体)

- ✓ リサーチシステムの違いが、カスタマイズリサーチの比率の差に現れている  
→マクロミル 8.4%、YVI 16.2% (AIRsで運用できる調査範囲が広いため)
- ✓ YVIは、提案力の強さにより、分析サービスの構成比率が高い

(単位:%)



# 単価・稼働社数(窓口)・VIPの状況

指標	単位	2010年6月期				2011年6月期	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	通期 (第4四半期)	第1四半期	
						マクロミル	統合後
Q毎 平均受注単価	万円	72.8	70.3	72.9	70.0	79.7	
Q毎 平均受注単価 (自動調査のみ)	万円	51.0	49.4	52.4	48.5	53.9	
年間稼働社数(注1)	社	659	995	1,270	1,441	730	904
年間稼働窓口数(注1)	窓口	1,452	2,481	3,477	4,188	1,702	2,221
VIP社数(注2)	社	151	144	155	144	180	242

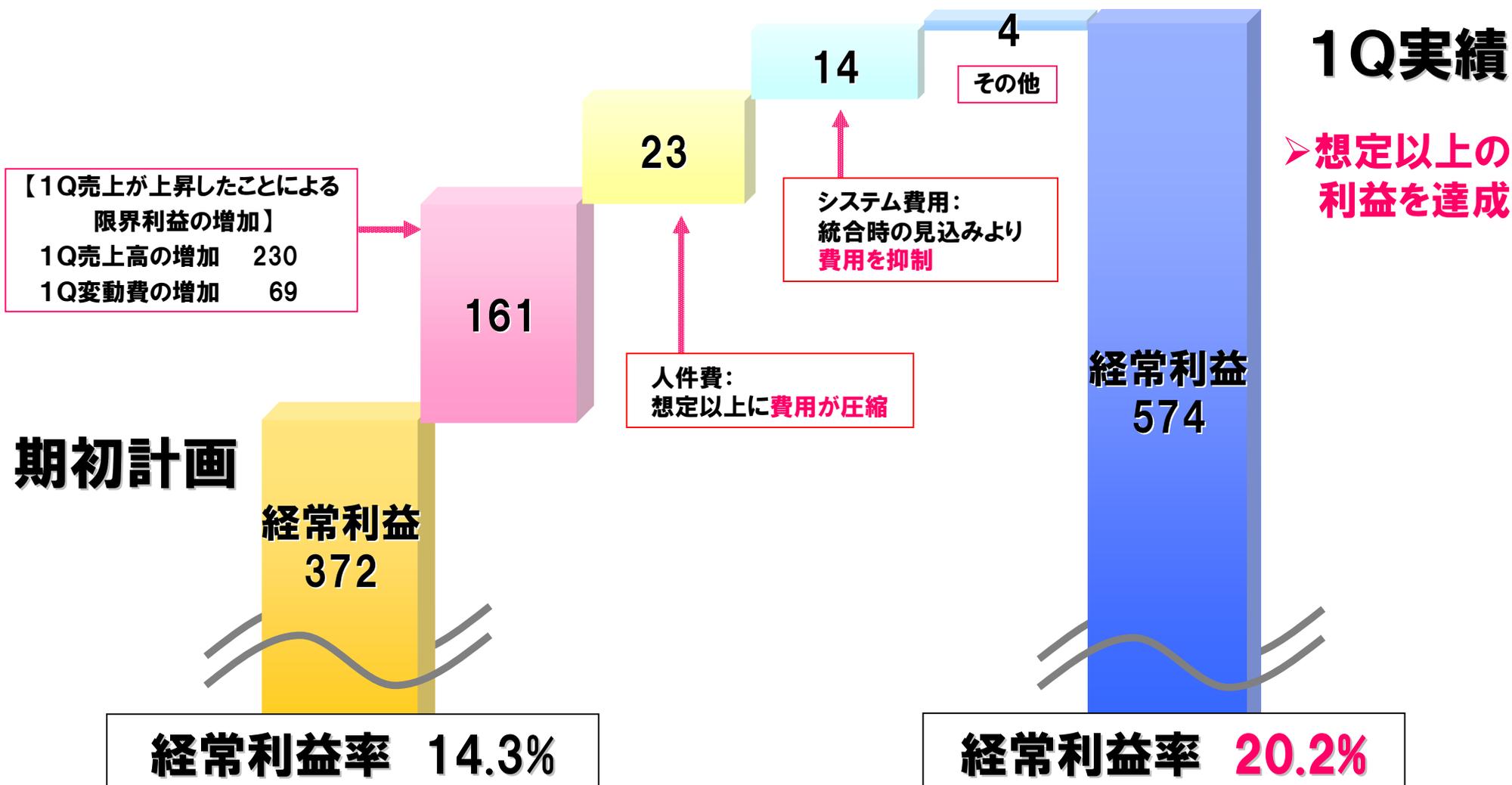
(注1) 期初から該当期間までに一度以上売上のあった社数/窓口数を表示しております。

(注2) 年間10百万円以上売上の顧客をVIPと定義しております。

- ✓ 大型調査の回復とともに、分析や定性調査等の広がりによって単価が上昇
- ✓ 統合により、顧客数・窓口数・VIP社数とも大幅増

# 利益増加要因(単体)

(単位:百万円)



# 統合に伴う費用の状況

経営統合に伴い発生する費用は、概ね、のれん(含、無形資産)、特別損失にて処理

特別損失（1Qで0.9億円、年間で2.4億円の見込み）

→ 大半は上期に発生する予定

無形資産承継による償却費（のれん4.3億円、顧客資産2.9億円、パネル資産0.4億円）

→ 合計7.6億円（償却期間は各20年、16年、9年）

（単位：百万円）

一時費用	2011年6月期	2011年6月期
	1Q実績	通期見込
特別損失（システム、オフィス、人員）	92	242
<b>継続費用</b>		
のれん償却（4.3億円、20年償却）	4	20
顧客資産償却（2.9億円、16年償却）	3	17
パネル資産償却（0.4億円、9年償却）	1	5
償却費用の増加（システム、オフィス）	5	101
継続費用小計	13	143

※償却費のみ翌期以降も継続発生

費用合計 105 385

## 2. 経営統合の進捗について

# 統合の進捗について



✓ 8-9月においては、マクロミルとYVIで各自のシステムを利用

→ マクロミル売上高 20.4億円(昨対比+26.0%)  
YVI売上高 7.9億円(昨対比+11.5%)

順調なすべり出し

# 統合のねらい

## ✓ 圧倒的な売上シェアの獲得

売上高：統合前 73億円(11期通期実績) → 統合後 125億円(12期通期計画)

## ✓ 両社の強みを活かした会社へ

→AIRs導入により、YVIの利益率を改善

→YVIの優秀なリサーチャーにより、マクロミルの提案力を底上げ

### マクロミル

#### 強み

- ✓強い営業力
- ✓優れたリサーチシステム(AIRs)による高収益体質

#### 課題

- ✓高いリサーチスキルを持つ人材の補充

### YVI

#### 強み

- ✓リサーチ提案力の高い人材が豊富

#### 課題

- ✓生産性・利益率の改善  
(人手がかかる調査システム)

# 人員の状況について

指標	単位	2010年6月期				2011年6月期	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	通期 (第4四半期)	第1四半期	
						マクロミル	統合後
従業員数 連結 <sup>(注)</sup>	人	356	297	297	309		605
従業員数 単体 <sup>(注)</sup>	人	295	288	289	298		596

(注)従業員数は休職者を除いて表記しております。

- ✓ 統合により、充実した人員体制へ  
→ 特にリサーチャーが強化されている

※執行役員以上と休職者はカウントしておりません。

営業  
80→130名

運用  
60→110名

リサーチャー  
60→130名

- ✓ AIRsへのシステム統一  
→ 従業員一人当たりの、生産性向上を早期に実現させる

# 組織統合後の体制について

第1事業本部

第2事業本部

第3事業本部

第4事業本部

ウエスト事業本部

ソリューション本部

**新設**

コンベンショナルリサーチ本部

※グループインタビューや会場調査、ホームユーステストなどの従来型調査を、ネットリサーチの強みを活かしつつ、運用する組織

顧客からの、コンベンショナルリサーチに対する  
要望の高まり

ネットリサーチ企業としての「強み」を活かした  
コンベンショナルリサーチを提供

- AIRsの利用により、**ワンストップリクルーティング**が可能  
調査対象者のリクルーティングが容易に行える
- 調査ノウハウの豊富な**専門スタッフ**
- インタビュールーム・CLT会場等、**充実した社内設備**を実現



- ✓ 10月より新組織スタート。マクロミル・YVIの人材を結合して配置
- ✓ YVIの強みを活かし、コンベンショナルリサーチ本部を新設

# モニタの状況について

指標	単位	2010年6月期				2011年6月期	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	通期 (第4四半期)	第1四半期	
						マクロミル	統合後
マクロミルモニタ	万人	87.4	88.7	90.3	92.6	94.0	94.0

✓ マクロミルモニタに加え、Yahoo！リサーチ・モニタも利用可能

## PCモニタ

マクロミルモニタ  
約94万人

ボイスポート会員  
約48万人

2011年1月にYVIモニタ  
(ボイスポート)を統合し、  
約100万人となる見込み

Yahoo！  
リサーチ・モニタ

約143万人

## モバイルモニタ

パソコン+ケータイ併用モニタ



モバイル協力モニタ

約23万人

ケータイ専用モニタ



ミルモバモニタ

約6万人

ケータイ専用モニタ



Uchico中高生モニタ

約1万人

※モニタ数はYahoo！リサーチ・モニタ→10月現在、その他→9月末現在の数値です。

# 3. 業績見通しと資本政策について

# 通期業績見通しについて(単体)

(単位:百万円)

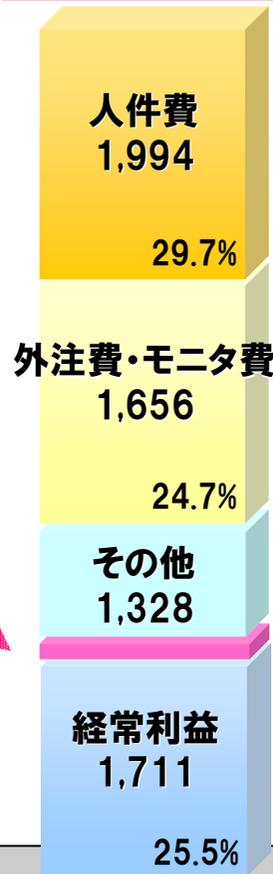
## 上半期計画

売上高  
5,822百万円



## 下半期計画

売上高  
6,708百万円



のれん等償却

19百万円      19百万円

## 通期見通しに対し、 順調な進捗

1Q業績が**好調**であったことに加え、  
下半期は例年売上ボリュームが大きい。

売上増により、人件費負担増加分を  
吸収できることから、下半期の経常  
利益率は**大幅な改善を見込む**。

12期は経常利益率20%を目標としつつ、  
統合前の水準**(30%)**を目指す

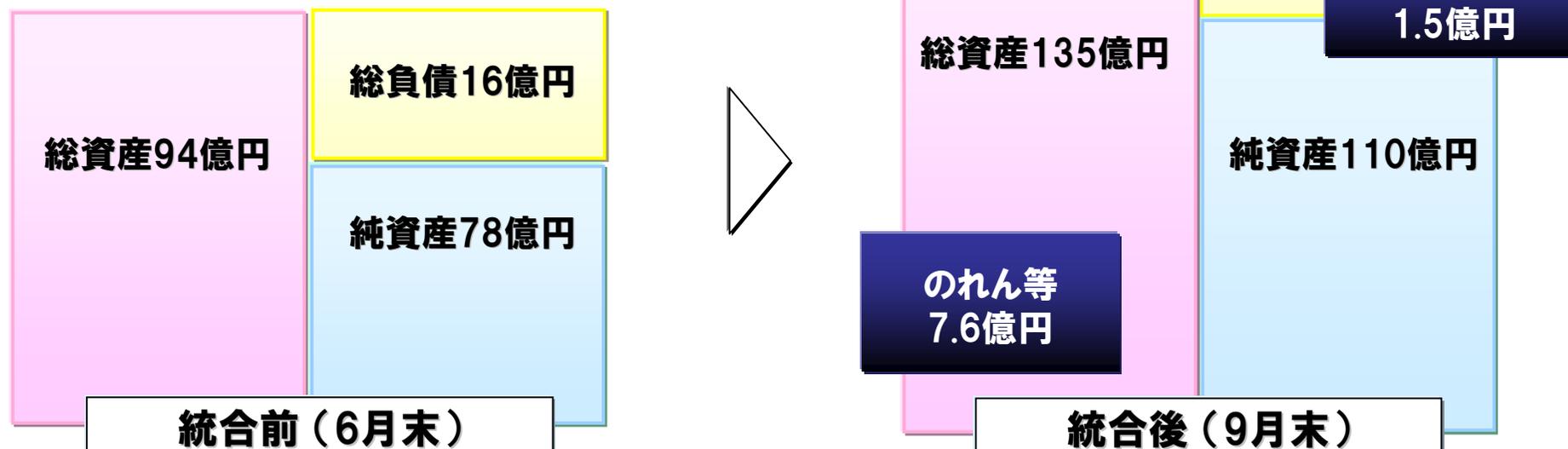
# バランスシートの推移

統合後の現金及び預金は65億円、投資有価証券は10億円  
→ 今後も事業成長のための有効な資金として使用

資産除去債務会計基準の適用開始（1.5億円計上）

YVIとの会計基準を統一した上で承継資産額が確定（総資産42.5億円）

## B/Sイメージ



# 資本政策について①

2010年11月12日発表



「株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更に関するお知らせ」

「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」

◆ **流動性の向上および投資家層の拡大をねらい、  
「株式分割」と「単元株制度の採用」を決議**

- ✓ **平成23年1月1日付で、マクロミル株式1株を200株に分割**  
基準日…平成22年12月31日
- ✓ **同時に、単元株式数を100株に設定**

⇒ **投資単位は実質的に2分の1へ。個人株主層の拡大を目指す**

⇒ **配当金については、実質的変更なし**

※ **中間配当は分割前の株式数に対して支払われます**

# 資本政策について②

2010年11月12日発表

「株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更に関するお知らせ」

→ 「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」

## ◆ 機動的な資本政策の遂行のため、自己株式の取得に係る事項を決議

- ✓ 取得期間 平成22年11月15日～平成23年6月30日
- ✓ 取得する株式数の上限 5,000株（自己株式を除く発行済み株式数の3.2%）  
（株式分割後の上限は1,000,000株）
- ✓ 株式の取得金額の上限 10億円

⇒ 総還元性向は100%

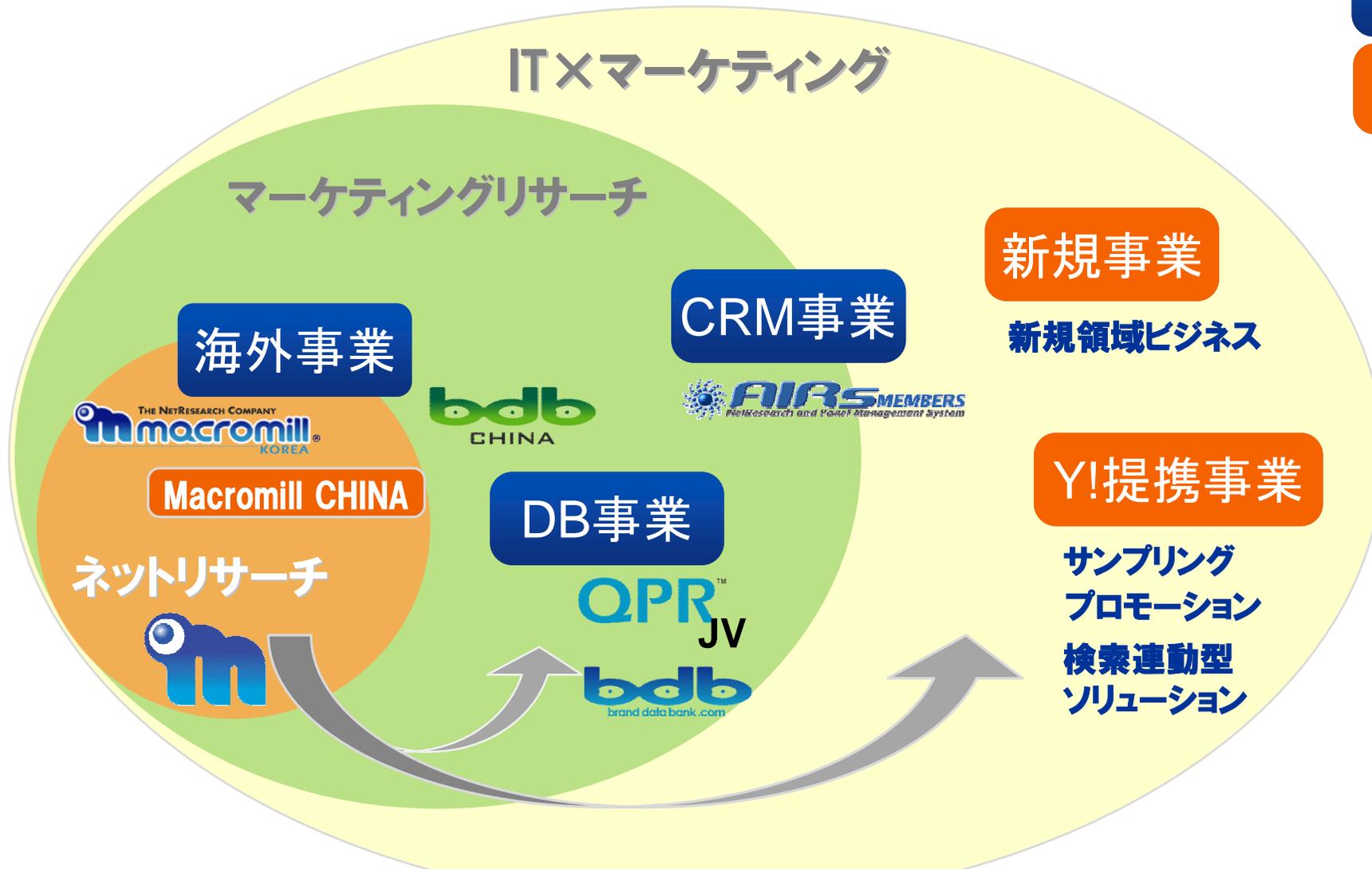
資金の有効活用とともに、株主還元策として実施  
（ROEやEPSの向上も意識）

## 4. 今後の事業展開について

# マクロミルの事業領域

既存の  
取り組み

新規の  
取り組み



✓ ネットリサーチを軸に、IT×マーケティングの領域で事業を拡大

# 新規・海外事業のご報告

	2011年6月期 第1四半期売上高	QPR、bdb、AIRsMEMBERS合計 通期売上高目標 7億円
	0.8億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2010年7月: QPRモニタを1万人に拡大</li> <li>✓ 新会社設立に関する基本合意を発表</li> </ul>
	0.3億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2010年8月  ,  開始</li> <li>✓ 第1四半期 新規データベース契約 15件</li> </ul>
	0.2億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ サービス開始から、約1年半が経過</li> <li>✓ 第1四半期 新規契約 4件</li> </ul>
	(ご参考) 1.1億円 通期目標 4.7億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 従業員:22名、パネル数:24.0万人</li> <li>✓ 持分法適用会社の為、損益のみ取り込み →今期黒字化を見込む</li> </ul>

※マクロミルコリアの売上高は、1ウォン=0.0736円にて換算

# 新会社設立に関する基本合意について

新会社設立  
QPR<sup>TM</sup>  
JV

資本金  
4億円

株主構成 フェーズ①

出資比率(予定)

 ネットリサーチなら、マクロミル	82%
Hakuhodo DY holdings	15%
 Tokyu Agency Inc.	3%

フェーズ②～

募集中

- ✓ 3社共同で新会社設立をし、QPR事業の強化を決定
- ✓ 2011年1月(予定)の設立後も戦略的に出資を募り、消費者購買データQPRの「業界スタンダード」化を目指す

QPR(キューピーアール:Quick Purchase Report)<sup>TM</sup> …

マクロミルと東急エージェンシーが共同展開している商品購買調査サービス。QPRモニタに携帯型バーコードスキャナーを配布し、購買動向データを収集。さらにネットリサーチにて、購入理由などの意識調査も一貫して提供可能。

23

**日本最大最強  
かつ  
世界に類を見ないITマーケティング企業へ**



# ご参考資料

# (ご参考)会社沿革

2000年1月

## 株式会社マクロミル・ドット・コム設立

2000年8月

## 自動インターネットリサーチシステム (AIRs) 完成・営業開始

2001年1月  
3月

本格的な採用活動を開始 営業部発足  
初の短月黒字化達成

2001年12月

## 株式会社マクロミルに商号変更

2002年6月  
2003年3月  
5月

初の通期黒字化 (2002年6月期、売上高: 3億円)  
日経ベンチャー「ベンチャー・オブ・ザ・イヤー2002」未上場企業部門10位受賞  
システム (AIRs) を機能強化して全面刷新。集計ソフトQuick-CROSSの無料提供開始

2004年1月

## 東京証券取引所マザーズ上場

2月  
4月  
7月  
9月  
2005年2月

営業全国展開 (大阪に関西支店開設)  
ネットリサーチ総合研究所設立  
モバイルリサーチ【MobileMill】サービス開始  
急成長率ランキング日本テクノロジーFast50で国内第5位受賞  
海外調査パネルを管理するAIPと提携。海外調査【GlobalMill】サービス開始

2005年4月

## 東京証券取引所市場第一部へ市場変更

4月  
7月  
2006年3月  
2007年12月  
2008年7月  
2009年10月  
2010年8月

ソネット・エムスリー (現: エムスリー) と提携。医療従事者対象リサーチ【M3Mill】サービス開始  
社団法人 日本経済団体連合会 加盟  
自動インターネットリサーチシステム (AIRs) 第三世代カットオーバー  
東急エージェンシーと 携帯型バーコードスキャナを用いた商品購買調査QPR サービス開始  
MACROMILL Korea INC. (マクロミル・코리아) 設立  
ブランドデータバンク社 買収によるマーケティング・データベースサービスの拡充  
マクロミルワーブ社設立  
**ヤフーバリューインサイト株式会社のマーケティングリサーチ事業を  
吸収分割により承継**

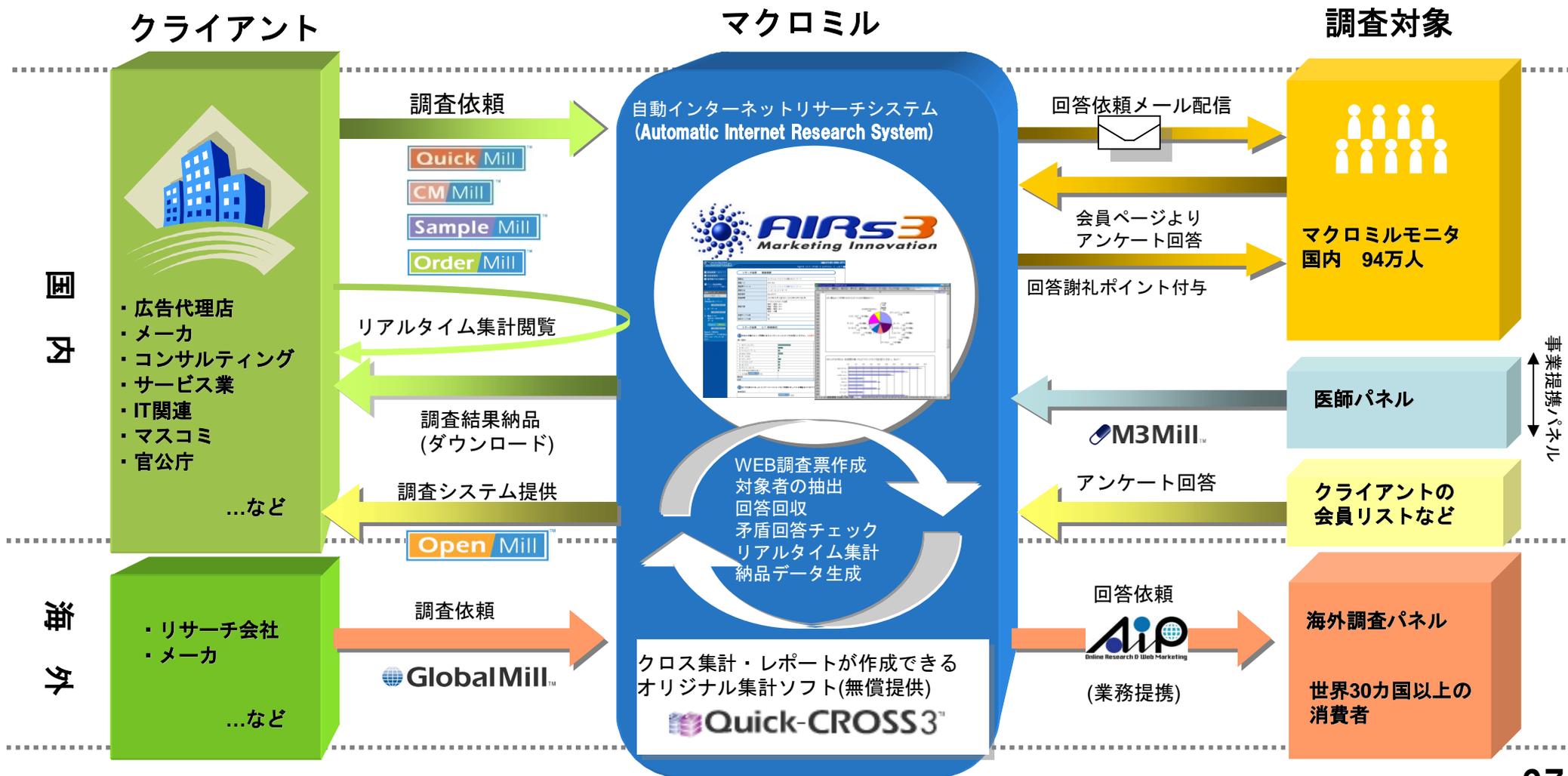
◆イメージキャラクターに菊川怜を起用

◆イメージキャラクターに原田知世を起用



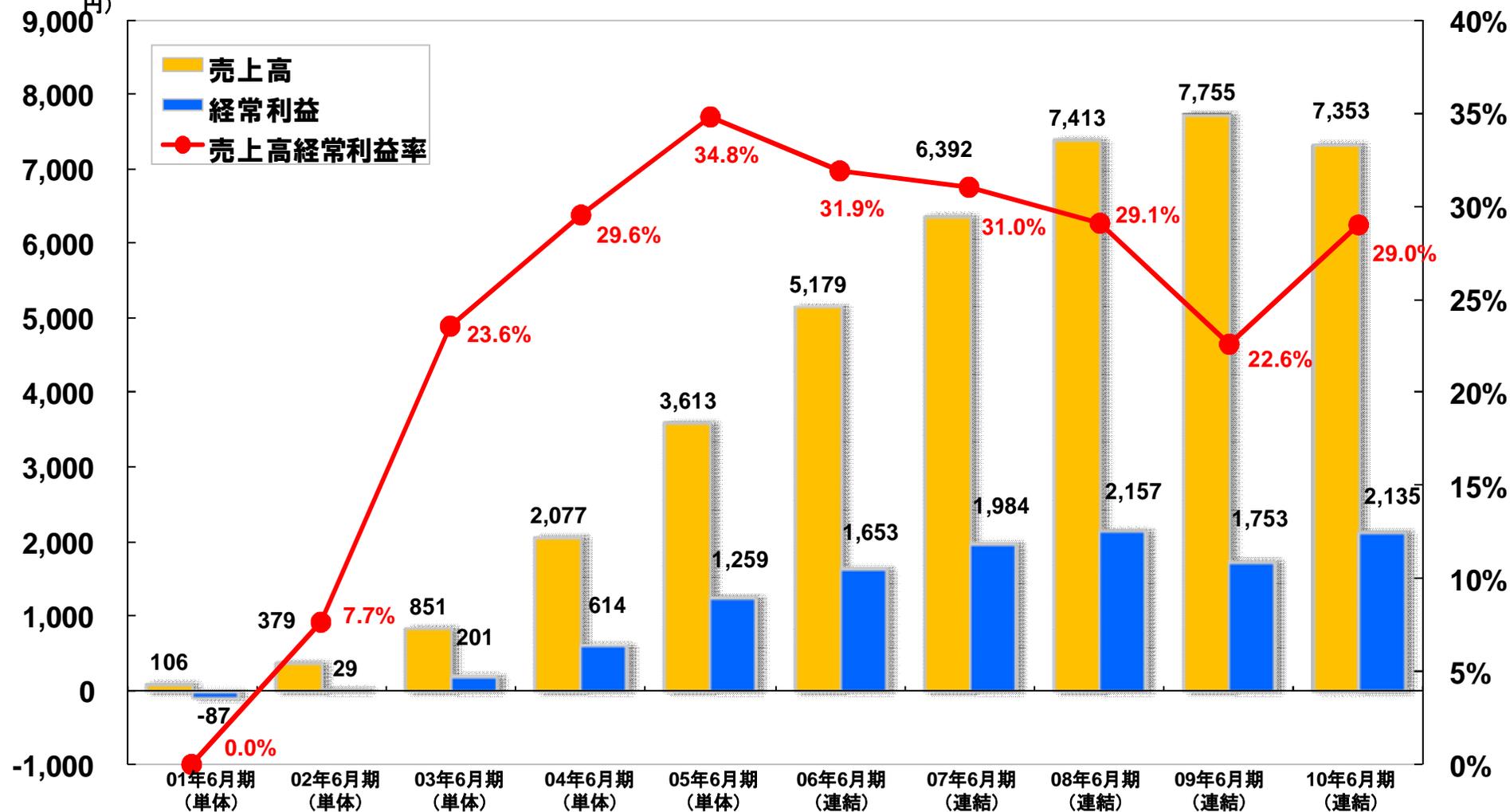
◆イメージキャラクターに栗城史多を起用

# (ご参考)マクロミル事業概要 ネットリサーチのサービスフロー



# (ご参考)業績推移 売上高・経常利益・経常利益率

(単位：百万円)



# (ご参考)3力年の事業計画

(金額単位:百万円)

	2011年6月期(計画)		2012年6月期(計画)		2013年6月期(計画)	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比

(単体)

売上高 (10%成長)	12,530	100%	13,700	100%	15,100	100%
経常利益	2,631	21%	3,100	23%	3,700	25%
当期純利益	1,376	11%	1,900	14%	2,200	15%

(連結) マクロミルコアは持分法適用のままの前提

売上高	12,530	100%	14,100	100%	15,700	100%
経常利益	2,506	20%	3,200	23%	3,900	25%
当期純利益	1,304	10%	1,900	13%	2,400	15%
海外売上比率					約3% ※	
連結EPS (円)	8,516		12,500		15,600	
時価総額 (PER20倍の前提)	260億円		380億円		480億円	

※マクロミルコアを連結子会社とした場合、連結売上高は170億円、海外売上比率10%となります

# 本資料に関するご注意

本資料の内容は、現在入手可能な情報から当社の経営陣が判断したものであり、その内容の正確性を保証するものではありません。

様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することも考えられます。従いまして、将来の業績や結果につきましては、本日ご説明する内容と異なる可能性があることをご了承ください。

－本資料に関するお問合せ先－

株式会社マクロミル 財務経理本部 IR担当

TEL: 03-6716-0706 FAX: 03-6716-0701

E-mail: [ir@macromill.com](mailto:ir@macromill.com)